

事業報告書

令和2年度
(第5期事業年度)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目次

地方独立行政法人静岡市立静岡病院の概要

I	現況	1
	(1) 法人名	
	(2) 所在地	
	(3) 設立年月日	
	(4) 組織図	
	(5) 役員の状況	
	(6) 設置・運営する病院	
	(7) 職員数	
II	事業報告	4
第1	中期計画及び事業年度の期間	
第2	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
1	静岡病院が担うべき医療	4
	(1) 地域の特性に配慮した医療の確立と提供	
	(2) 救急医療	
	(3) 感染症医療	
	(4) 周産期医療・小児医療	
	(5) 災害時医療	
	(6) 高度医療・専門医療	
2	地域の医療機関等との機能分化及び連携強化	9
	(1) 地域における診療機能と役割	
	(2) 行政機関、在宅医療・介護との連携強化	
3	市民・患者の視点に立った医療サービスの提供	10
	(1) 患者中心の医療の提供	
	(2) 市民への情報発信と公益に資する取組	
	(3) 患者ニーズの把握及び迅速な対応	
	(4) 接遇に対する職員の意識向上	
4	組織力を生かした診療体制	12
	(1) 部門を超えた連携の強化	
	(2) チーム医療	
5	安心・安全な医療の提供	13
	(1) 医療安全対策	
	(2) 法令・行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底	

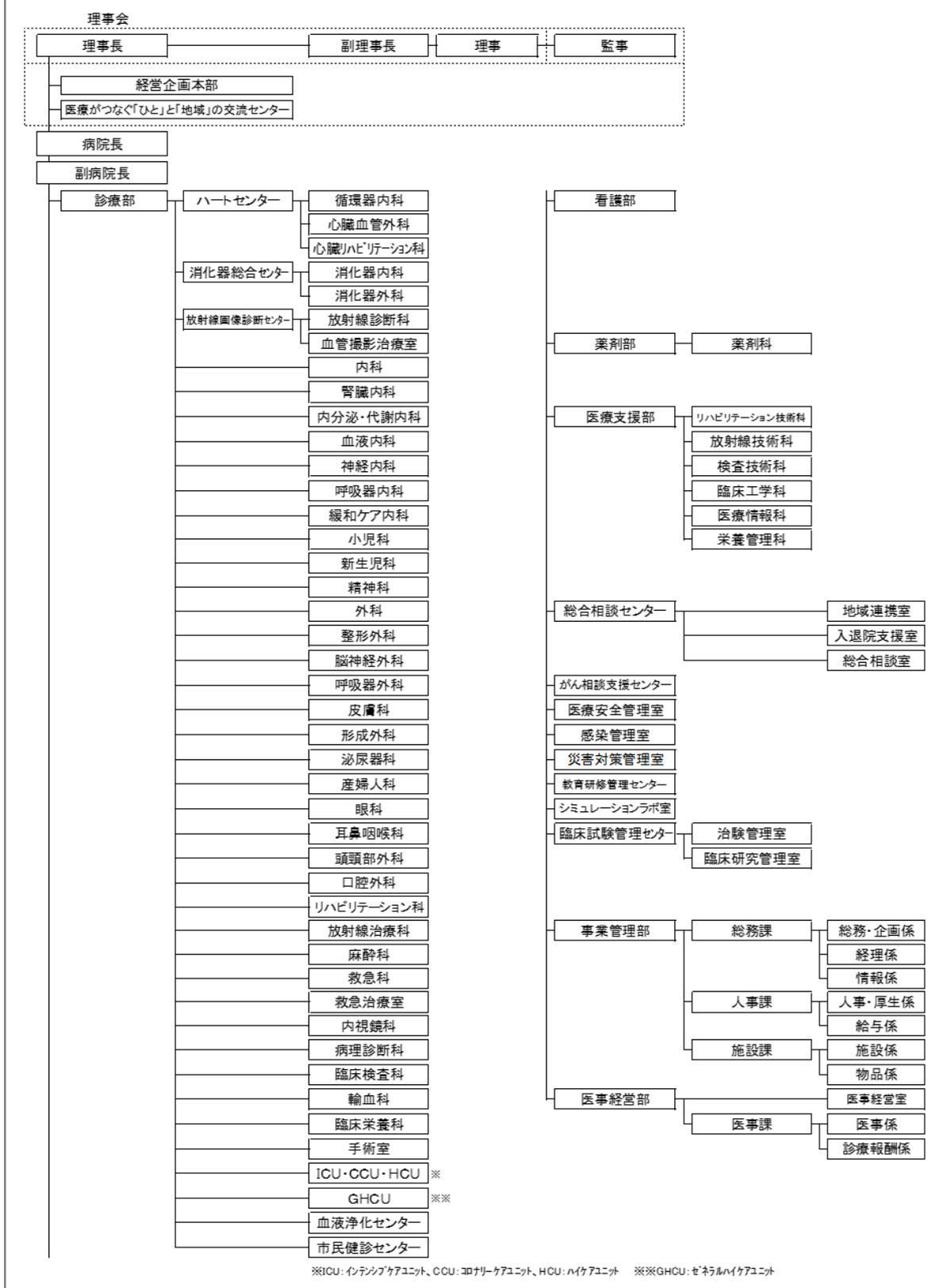
第3	業務運営の改善及び効率化に関する事項	
1	業務運営体制の構築	15
	(1) 効率的な業務運営の実現	
	(2) 組織的な業務改善の取組	
	(3) 市民との協働による病院運営の実施	
2	優れた人材の確保・育成	17
	(1) 医療従事者の確保	
	(2) 教育・研修への取組	
3	新たな働き方の実現を目指した職場環境の整備	18
	(1) 働き方改革への取組	
	(2) やりがいを引き出す人事・給与制度の整備	
第4	財務内容の改善に関する事項	
1	健全経営の維持	20
	(1) 経営基盤の確立	
	(2) 収入の確保	
	(3) 費用の節減	
第5	その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
1	計画に基づいた効率的・効果的な投資	22
第6	予算、収支計画及び資金計画	
1	予算（令和2年度）	23
2	収支計画（令和2年度）	24
3	資金計画（令和2年度）	25
第7	その他市の規則で定める業務運営に関する事項	
1	施設及び設備に関する計画（令和2年度）	25

地方独立行政法人静岡市立静岡病院の概要

I 現況（令和3年3月31日現在）

- (1) 法人名 地方独立行政法人静岡市立静岡病院
- (2) 所在地 静岡市葵区追手町10番93号
- (3) 設立年月日 平成28年4月1日
- (4) 組織図

地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織図（令和2年4月1日）



(5) 役員の状況 (令和2年4月1日時点)

役 職	氏 名	備 考
理事長	宮下 正	
副理事長	小野寺 知哉	病院長を兼務
副理事長	平松 以津子	
理事	居城 舜子	
理事	渡邊 昌子	
理事	藤田 尚徳	
理事	脇 昌子	病院長補佐
理事	上松 憲之	常勤
理事	山崎 文郎	副病院長を兼務
監事	興津 哲雄	弁護士
監事	山田 博久	公認会計士

(6) 設置・運営する病院 (令和3年3月31日時点)

病 院 名	静岡市立静岡病院	
所 在 地	静岡市葵区追手町10番93号	
理 念	開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。	
主な役割 及び機能	地域医療支援病院 (平成18年) 臨床研修指定病院 救急告示病院 第一種感染症指定医療機関 (平成20年) 災害拠点病院 (平成25年) 地域がん診療連携拠点病院 (平成19年) エイズ中核拠点病院 地域肝疾患診療連携拠点病院 (平成19年) 地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定病院 (平成20年)	
診療科目	内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、 循環器内科、緩和ケア内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、 脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、 歯科口腔外科及び病理診断科 (計31科目)	
許可病床数	506床 (感染症病床「一類2床、二類4床」を含む)	
沿 革	明治2年	追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設
	明治9年	公立静岡病院として屋形町で開院 (県立)
	明治15年	県立から郡立 (有度・安倍郡) に移管
	明治22年	静岡市制施行に伴い静岡市に移管
	明治38年	市立静岡病院と改称
	昭和20年	戦災により焼失
	昭和21年	隣保館 (巴町59番地) を改築、仮病院とする
	昭和26年	追手町10番93号 (現在地) に移転
	昭和49年	本館 (旧東館) 竣工
	昭和60年	病院建設工事施工 (4か年継続事業)
	昭和62年	第1期西館高層棟完成

沿 革	平成元年	第2期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成
	平成2年	オープンシステム（開放型病院）実施
	平成3年	心電図伝送システム導入
	平成7年	オーダリングシステム稼働
	平成15年	新静岡市にて開設
	平成15年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定審査に合格（Ver.4）
	平成15年	地域医療支援室を設置
	平成18年	地域医療支援病院の承認を取得
	平成19年	地域がん診療連携拠点病院の指定
	平成19年	肝疾患診療連携拠点病院の指定
	平成20年	東館竣工
	平成20年	電子カルテシステム稼働
	平成20年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.5)
	平成21年	D P C 対象病院
	平成22年	病院専用駐車場竣工
	平成25年	ハイブリット手術室稼働
	平成25年	内視鏡下手術用ロボット（ダ・ヴィンチ）稼働
	平成25年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver.1.0)
	平成25年	災害拠点病院の指定
	平成26年	経カテーテル大動脈弁置換術開始
	平成28年	地方独立行政法人としてスタート
	平成29年	PET/CT稼働
	平成30年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver.2.0)
	令和元年	創立150周年記念式典及び祝賀会挙行
	令和元年	パルス式キセノン紫外線照射ロボット（ライトストライク）導入
	令和2年	新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定
令和2年	特定行為研修指定研修機関の指定	

(7) 職員数 913名（令和3年3月31日現在）

（内訳）

医 師	158名
看護師・助産師	517名
医療技術員	172名（うち派遣職員2名）、
事務職	66名（うち派遣職員13名）

II 事業報告

第1 中期計画及び事業年度の期間

第2期中期計画の期間 2019年4月1日から2023年3月31日までの4年間とする。

第2期事業年度の期間 2020年4月1日から2021年3月31日までの1年間とする。

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 静岡病院が担うべき医療

(1) 地域の特性に配慮した医療の確立と提供

○静岡病院の果たすべき役割

・静岡県地域医療構想を踏まえた当院の主たる役割を、入院や手術による治療が必要な患者を受け入れる急性期医療・高度急性期医療を担うこととして、診療体制の整備や医療の提供を行った。

・紹介率は86.4%と前年度(86.7%)を下回ったが、同水準を維持した。逆紹介率は144.0%と、前年度(135.9%)を大きく上回る結果となったが、新型コロナウイルス感染予防のため受診患者数が減少し、大きな影響を受けた。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標	2020 (R2年度) 実績
紹介率	74.4%	76.5%	85.8%	86.7%	87.0%	86.4%
逆紹介率	107.1%	103.5%	127.2%	135.9%	121.0%	144.0%

・急性期を脱した患者を、慢性期医療や在宅医療にスムーズに移行するため、総合相談センターによる入院時からの入退院支援を強化した。

・新型コロナウイルス感染症患者や、急性期医療が必要な患者の入院病床を確保するため、急性期を脱し症状の落ち着いている患者を、病病連携により転院させるなど、病院間での連携を図った。

・令和2年度から加入した「ふじにくにねっと」を利用し、他の医療機関と、患者の情報を共有し、新型コロナウイルス感染症患者や、緊急性を要する患者の治療を行うなど、病病連携・病診連携を推進した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績	
在宅医療・介護連携会議への参加回数	—	—	2回	4回	0回	会議の開催はH30年度から

(2) 救急医療

○救急医療の提供と質の向上

・市内公的病院輪番制による二次救急医療の当番実績は、内科86日、外科89日、小児科28日であった。

・救急搬送患者数は5,352人で、静岡市消防局救急課報告件数としては市内最多で、静岡地域内公的医療機関(5医療機関)の中での当院の受入割合は26.7%であった。同様に、救急搬送患者応需率は94.92%で、こちらも静岡地域内公的医療機関では最も率が高かった。

・止むを得ず不応需となった事例については、毎月実施している救急業務委員会で一件ごと検証を行い、適正な救急患者受入れに努めた。

・重症な患者を多く受け入れていることを示す「救急医療係数」は、引き続き、県内DPC特定病院群の中で当院が一番高い数値であった。

※DPC特定病院：DPC対象病院は、機能や役割に応じて、①大学病院本院群、②DPC特定病院群、③DPC標準病院群の3分類に分けて指定されている。DPC特定病院群とは、大学病院本院に準じた診療内容と一定の機能を有する病院。(県内5病院：静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、静岡県立静岡がんセンター、聖隷浜松病院)

※静岡地域内公的5医療機関：静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、J A静岡厚生連静岡厚生病院

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標	2020 (R2年度) 実績
救急搬送患者数	市内最多 5,894人	市内最多 6,161人	市内最多 6,180人	市内最多※1 5,999人	市内最多 を維持	市内最多※1 5,352人
重症患者の受入実績 (DPC救急医療係数※2の 偏差値)	県内最大値 (63.6)	県内最大値 (68.4)	県内最大値 (66.1)	県内最大値 (66.0)	県内最大値 を維持	県内最大値 (66.1)

※1 数値は「静岡市消防救急課」の報告件数(過去の数値は病院ごとの算出数値)

※2 DPC救急医療係数

救急患者のうち、重篤で多くの検査・処置などが必要な患者を受け入れる病院を評価するための数値

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
市内輪番制 救急当番日の実績					
内科	83日	81日	86日	85日	86日
外科	85日	88日	90日	87日	89日
小児科	47日	43日	24日	20日	28日

○救急医療に係る関係機関との連携

- ・令和2年度に開催された静岡市主催の「救急医療体制協議会」では、静岡市救急医療体制の課題解決に向け、静岡県をはじめ、静岡・清水両医師会、静岡市消防局、近隣医療機関との情報共有、連携強化を図った。
- ・病院群輪番制が脆弱な清水区の救急医療体制を維持するため、当院が積極的に広域(静岡・清水全域)での救急当番を担い、他医療機関と連携して静岡二次医療圏の救急医療体制の維持に努めた。
- ・救急救命士の実習受入施設として、救急救命士17人(実習延日数106日)の受入れを行った。
- ・救急隊員の育成のため、消防学校救急科入校生4人(実習延日数4日)の病院実習を受入れた。

(3) 感染症医療

○感染症医療提供体制の構築

- ・感染症病棟担当看護師を対象に防護服の着脱指導を実施した。
- ・感染患者に直接治療にあたる医師、看護師、検査技師等を院内感染から守るため、防護服の着脱には細心の注意を図るよう意識させ訓練を実施したため、多数の医療従事者が防護服の着脱手順を熟知した。
- ・全職員を対象とした感染対策講演会を2回実施し、延べ2,049人が参加した。
- ・通常の看護体制とは別に、感染症患者の受入れを想定した看護体制を整えており、24時間365日受入れ可能な状態を維持している。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
防護服の着脱訓練等の実績(参加延べ人数)	24人	24人	24人	25人	80人
感染対策の講演会(年2回)参加延べ人数 ※	464人	916人	1,135人	723人	2,049人

○感染症医療提供のための関係機関との連携

- ・新型コロナウイルス陽性者が出た場合のゾーニングや防護服の着脱について、グループホームや特別養護老人ホーム等に赴き感染対策指導を実施した。
- ・感染防止対策支援加算1、2を取得している医療機関と相互カンファレンスを行い、新型コロナウイルス対策を含めた感染症対策実施について相互評価を行うことにより、感染防止対策の向上及び情報共有を図った。
- ・県が設置したFICT(ふじのくに感染症専門医協働チーム)の活動で、新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した施設等に当院医師及び看護師を派遣した。(6施設、10回、延べ15人)

○新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染症への対応においては、第一種感染症指定医療機関として、県内の感染症指定医療機関の先頭に立ち、感染患者の受入れを積極的に行い治療に当たった（入院患者 136 人）。
- ・県内で最も早く E C M O（エクモ/体外式膜型人工肺）を適用した治療を実施し、感染患者の回復を図った。
- ・COVID-19 対策本部を中心に、毎週会議を実施し、情報を共有すると共に迅速な意思決定による対応を行った。
- ・院内に新型コロナウイルスを持ち込ませないよう、以下の対策を実施した。
 - 入院患者への面会制限
 - 業者等への不要不急の出入中止の要請
 - 全職員への出勤前の検温等の体調確認、発熱時の出勤停止
 - 全職員に対する不要不急の外出自粛要請の徹底
- ・新型コロナウイルス感染症の対応にあたる人員の確保や、必要な医療機器、検査機器の設置などの施設及び設備の整備、マスク・フェイスシールド・防護服等の感染防止対策に必要な物資の確保・補充を行った。
- ・看護師を始めとする医療従事者へのメンタルヘルス対策や宿泊先の確保を行った。
- ・理事長や、県の専門家会議及び F I C T（ふじのくに感染症専門医協働チーム）のメンバーとなっている医師を中心に、新型コロナウイルスに関する情報を、各種メディアを活用し、積極的に市民に向け情報提供した。

(4) 周産期医療・小児医療

○周産期・小児医療の提供

- ・全市的な出産件数の減少及び、新型コロナウイルス感染防止対策として、里帰り出産を一部制限したことにより、分娩件数は前年度実績を下回った。
- ・より安全な医療提供のため、切迫早産、合併症妊娠、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、胎児異常などのハイリスク症例は、その都度、産婦人科医師と小児科医師の合同カンファレンスで治療方針の検討を行った。
- ・必要に応じ分娩時に小児科医師が立会う等、24 時間いつでも適切な医療を提供できる体制の維持に努めた。
- ・小児救急に対するスキルアップを図るため、院内医療従事者及び研修医を対象に、小児科医師より、新生児蘇生法（N C P R）や小児二次救命救急法（P A L S）講習会を複数回実施した。
- ・妊婦の状況に応じ適切な対応ができるよう、正常分娩を取り扱う医療機関からのハイリスク患者の受入れや、産科救急医療受入れ医療機関等との連携を行った。
- ・感染症指定病院として、新型コロナウイルス感染妊婦の受入れ体制を整備した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
ハイリスク妊娠管理加算 算定症例数	29件	27件	20件	24件	16件
分娩件数	311件	261件	191件	229件	123件
うち ハイリスク分娩管理加算 算定症例数	39件	41件	26件	24件	24件
小児救急搬送受入件数	946件	867件	754件	630件	417件

(5) 災害時医療

○災害時医療訓練等の実施

- ・9月と2月に開催した総合防災訓練は例年の実施訓練から、災害時医療対応マニュアルをベースとした机上訓練に変更し実施した。
- ・火災を想定した夜間消防訓練は10月に西館・東館11階で実施し避難経路や情報伝達の確認を行った。
- ・新規採用者防火・防災設備研修が中止となったため、病棟単位で実施している「防火出前講座」の内容を充実し、職員の意識啓発を図った。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
防災訓練					
開催回数	2回	2回	4回	4回	4回
参加延べ人数	約250人	123人	375人	308人	278人

○災害時に備えた設備等の維持、物品の確保

- ・非常用電源の燃料である重油タンクの供給量の見直しを行い、災害拠点病院として必要な容量に拡充するため、設計の実施、工事計画の策定の後、令和2年度工事に着手した。令和3年度中に工事を完了する予定である。
- ・陰圧テントの組立訓練や発電機の始動確認のほか、医薬品や非常食の保存期限の確認を行い、期限切れの廃棄や不足分の補充を行った。

○災害医療派遣チーム（DMAT）の活動

- ・衛星電話を使用した衛星通信訓練（9月17日）に参加した。
- ・静岡空港航空機事故対応総合訓練の視察に参加した。
- ・県が設置する「新型コロナウイルス感染症対策チーム」への派遣要請に対し、隊員1名（医師）が参加し、新型コロナウイルス感染患者に係る搬送先医療機関の調整等を行った（12月～2月 計26日間）。
- ・国が主催する技能維持研修に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の対応を考慮し、国が研修を中止したことにより、不参加となった。
- ・県が主催する養成研修に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の対応を考慮し、県が研修を中止したことにより、不参加となった。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
DMAT訓練参加回数	3回	4回	4回	7回	2回
DMAT隊の 所有チーム数	1チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム

○防火出前講座による職員の意識啓発

- ・火災発生時における初期消火及び患者の避難誘導を円滑に行うためのDVD聴講や消防設備の確認を行う「防火出前講座」を新たに開催した。
- ・防火出前講座では初期消火を円滑に行うための消火器・消火栓の操作説明、実際に防火戸を閉鎖した状況で誘導灯までの避難経路を確認し、5病棟3部署8回の講座を開催し114名の病棟スタッフが参加した。

(6) 高度医療・専門医療

① 心臓・血管疾患

- ・心臓・血管疾患治療は、循環器内科、心臓血管外科ともに高い診療レベルを維持しており、引き続き、地域における心臓・血管疾患の中心的な役割を担った。
- ・TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）及びステントグラフト治療の症例数は順調に増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響による紹介患者数の減に伴い、他の手術件数は減少となった。
- ・令和2年12月から新規に、心原性ショックに対する強力な循環補助ポンプカテーテルであるImpella（インペラ）を導入し、使用を開始した。
- ・循環器疾患治療は、静岡市医療圏に限らず、志太榛原地区の広域的な救急輪番制の一翼も担っている

など、地域の中心的な役割を担った。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
心臓血管外科					
開心術	375件	367件	370件	348件	307件
ステントグラフト治療	97件	108件	124件	104件	110件
ペースメーカー手術	185件	167件	160件	167件	142件
循環器内科					
心臓カテーテル検査	2,596件	2,540件	2,569件	2,367件	2,032件
冠動脈インターベンション	477件	469件	545件	470件	439件
TAVI	22件	37件	52件	67件	75件
カテーテルアブレーション	177件	197件	255件	278件	234件

・当院の高度専門医療に必要な大型医療機器の更新の一環として、循環器内科の症例件数の増加により、使用頻度の高い血管造影撮影装置（アンギオグラフィー）4台目の導入を行い、慢性的な円滑な機器更新と慢性的な治療・検査待ちを解消し、さらに症例数を増やす体制を整えた。

・疾患別の地域連携パスを活用し、病診連携・病病連携の推進に積極的に取り組み、効率的な患者の受入れを行った。

連携システム参考値

虚血性心疾患 (IHD)連携システム	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
新規登録パス件数	196件	137件	145件	148件	149件
累計パス件数	1,935件	2,072件	2,217件	2,365件	2,514件

心房細動連携システム	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
新規登録パス件数	128件	101件	132件	125件	83件
累計パス件数	1,525件	1,626件	1,757件	1,882件	1,965件

② がん

・がん治療においては、これまでの豊富な治療実績やPET/CTなどの高度な医療機器を生かし、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療を提供した。

・低侵襲医療を推進するため、消化器外科では、令和元年度から手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）による直腸がん手術の運用を開始し、令和2年度は28件を実施した（前年度18件）。

・緩和ケア内科では、最期の時間を自宅で過ごしたいと希望する患者・家族に寄り添い、その希望に応えるため、在宅診療所、訪問看護師等との密な連携を行い、切れ目のない緩和ケアを実施した。

・コロナ禍による入院患者数の減に伴い、件数は減少したが、入院中の患者に対し、緩和ケアチームの積極的な介入を行った。（令和2年度実績75件）

・専門的な禁煙治療は、禁煙外来を設置し、令和2年度14名（前年度13名）のニコチン依存症患者を治療した。

・静岡市がん対策推進協議会の委員を委嘱され会議に参画した。

・ハローワークと共催で、就労支援相談会を開催した。（4回開催、延べ7人）

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績	
PET/CT稼働件数	—	743件	804件	802件	781件	H29年度から稼働
悪性腫瘍の手術件数	994件	1,010件	978件	994件	735件	
がん化学療法延べ患者数	3,336人	3,774人	3,588人	3,715人	3,626人	
放射線治療件数	254件	264件	287件	306件	323件	
がん相談支援件数	—	2,874件	3,707件	3,541件	2,194件	H29年度から件数の算出方法が変更
産婦人科によるがん検診等の件数	—	116件	221件	245件	220件	
市内中学校での「がん教育」活動実績	—	3校 4日間	8校 7日間	6校 7日間	8校 8日間	H29年度から実施
緩和ケア内科外来受診患者数	94人	94人	110人	107人	68人	
緩和ケアチーム介入延べ件数	59件	88件	196件	286件	75件	

2 地域の医療機関等との機能分化及び連携強化

(1) 地域における診療機能と役割

○地域の医療機関との連携

・効率的で質の高い医療提供ため、当院医師と診療所医師の2人主治医制を基本に、患者情報の共有、医師間の役割分担による病診連携を実施し、結果として、紹介率は86.4%と前年度(86.7%)を下回ったが、同水準を維持し、逆紹介率は144.0%と、前年度(135.9%)を上回る結果となった。

・静岡市静岡医師会及び静岡市清水医師会との連携システムを活用し、疾患別地域連携パス登録者数を増やした。

特に、当院の循環器疾患領域では、虚血性心疾患(IHD)連携システムと心房細動連携システムのパス登録者数が多く、心房細動から脳梗塞を起こす患者さんを減らすことに繋がっていると考えられる。

※虚血性心疾患連携システムと心房細動連携システムの登録件数(令和3年3月時点)

・虚血性心疾患連携システム：静岡病院の登録件数：2,514件(前年度2,365件)

・心房細動連携システム：静岡病院の登録件数：1,965件(前年度1,882件)

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標	2020 (R2年度) 実績
紹介率(再掲)	74.4%	76.5%	85.8%	86.7%	87.0%	86.4%
逆紹介率(再掲)	107.1%	103.5%	127.2%	135.9%	121.0%	144.0%

・重篤な患者を受け入れ、急性期を脱した患者を、慢性期医療や在宅医療へスムーズに移行するため、総合相談センター(総合相談室、入退院支援室、地域連携室)の各室が一体的に取り組み、様々な相談への対応、入院前から退院後の療養までの支援、各医療機関との連絡調整等を行うことにより、入院延患者数が前年度比21,185人減少となった中、入退院支援件数は6,204件と前年度比31件の減少に留まり、積極的な支援を行った。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
病診連携がんカンファレンスの開催回数	12回	12回	12回	10回	0回
入退院支援の件数※1	2,989件	5,214件	5,728件	6,235件	6,204件

※1 入退院支援加算

入院前から、入院中の治療や栄養管理などに係る療養支援の計画を立て、その内容を患者及び関係者と共有等した場合に算定できる診療報酬

(2) 行政機関、在宅医療・介護との連携強化

○地域医療提供のための関係機関との連携強化

- ・ 静岡型地域包括ケアシステム推進の一助として、市地域包括ケア推進本部が主催した「令和2年度かかりつけ医認知症対応力向上研修」に8名の医師が参加した。(適切な認知症診断の知識・技術の習得及び、医療と介護が一体となった認知症の人への対応力の向上を目的とした研修会)
- ・ 当院医師が、静岡市在宅医療・介護連携協議会に委員に委嘱され、医療者の立場からの在宅医療等への助言を行った。
- ・ 救急医療を安定的に提供するため、救急救命士を対象にした再教育実習や消防学校救急科救急隊員を対象にした病院実習の受入れを実施した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
退院時共同指導件数※1	187件	194件	177件	170件	94件
在宅医療・介護連携会議への参加回数(再掲)	—	—	2回	4回	0回
消防局の救急救命士					
実習受入人数	6人	6人	18人	18人	21人
実習延べ日数	78日	100日	101日	84日	110日

会議の開催はH30年度から

※1 退院時共同指導料(在宅療養)

病院の医療者が、退院後の在宅療養を担う医療機関の医師等に、療養上必要な説明・指導を行った場合に算定できる診療報酬。

3 市民・患者の視点に立った医療サービスの提供

(1) 患者中心の医療の提供

○患者中心の医療提供

- ・ 患者中心の医療を提供するため、医療情報システムを活用した患者情報の共有を図り、インフォームドコンセントを徹底した。
- ・ 「総合相談」の窓口職員を配置することにより、患者や家族が相談しやすい体制を整えた。
- ・ 看護体制は、7対1看護体制を維持し、手厚い看護、高度医療への対応、医療安全の確保を図ることにより、より安全で信頼できる看護を提供した。
- ・ 病棟薬剤師も前年度と同人数の19人を維持し、医師等の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上に資する業務等を行うことができた。
- ・ 管理栄養士による栄養指導において、患者への個人指導により、きめ細かな栄養指導を行った。
- ・ リハビリ機能の強化として、ゴールデンウィークや年末年始の休日中にも実施する等、連続的なりハビリ業務が実施できる体制を確保した。
- ・ 患者の要望により適切にセカンドオピニオンを実施、件数は前年度並みに推移した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
総合相談件数	6,740件	5,090件	5,172件	5,003件	4,603件
病棟薬剤師配置人数	18人	18人	19人	19人	19人
栄養指導件数	3,121件	3,582件	4,107件	4,705件	4,166件

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
セカンドオピニオン					
受入	29件	28件	23件	19件	14件
紹介	42件	65件	64件	62件	59件

(2) 市民への情報発信と公益に資する取組

○市民や患者への情報発信

- ・市民や患者の望む情報発信のため、診療案内等の基本情報に加え、診療科別の診療実績や治験に関する情報等について、標準的な形式で指標を示すなど、ウェブサイトの充実を図った。
- ・患者に、よりわかりやすく当院や医療について理解してもらうため、院内広報誌（年6回）をはじめ、病院紹介パンフレット、糖尿病患者向けのパンフレットの発行を行った。
- ・がん患者向けの様々なポスター（がん関係公開講座、がん患者サロン「葵」開催案内、ハローワーク出張相談会開催案内、セカンドオピニオン案内）、職員採用関係ポスターの掲示による情報発信を実施した。
- ・理事長や、県の専門家会議及びFICT（ふじのくに感染症専門医協働チーム）のメンバーとなっている医師を中心に、新型コロナウイルスに関する情報を、各種メディアを活用し、積極的に市民に向け情報提供した。

○公益に資する取組

- ・市民の医療、健康への関心を高めるため、以下の取組を行った。
 - 1) 市教育委員会等と連携し、中学生を対象とした「がん教育」の講義を、中山間地の小規模校を含め8校で実施した。（前年度比2校増）
 - 2) 市民を対象とした「静岡病院出前講座」を実施し、延べ157人の市民が参加した。（前年比582人減）
- ・市立高校科学研究プログラムの実施にあたり、医師1名を講師として派遣した。
- ・県が設置する「新型コロナウイルス感染症対策チーム」への派遣要請に対し、隊員1名（医師）が参加し、新型コロナウイルス感染患者に係る搬送先医療機関の調整等を行った（12月～2月 計26日間）。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績	
静岡市民「からだ」の学校の実績						
参加延べ人数 (中心市街地)	620人	579人	442人	523人	感染予防のため中止	
参加延べ人数 (中山間地)	157人	108人	111人	110人	感染予防のため中止	
病院体験セミナー(学生)参加延べ人数	35人	49人	34人	74人	感染予防のため中止	
市内中学校での「がん教育」活動実績(再掲)	—	3校 4日間	8校 7日間	6校 7日間	8校 8日間	H29年度から活動開始
救急(心肺蘇生・AED)セミナー参加延べ人数	—	—	22人	出前講座に統合	出前講座に統合	セミナーの開催はH30年
病院出前講座参加延べ人数	535人	650人	546人	739人	157人	

(3) 患者ニーズの把握及び迅速な対応

○患者のニーズの把握

- ・当院の患者を中心に来院者のニーズや病院に対する評価を把握し、改善に向けた取り組みを実施するため、患者満足度調査、待ち時間調査及び提案箱の意見回収並びに対応策の検討を実施した。
- ・患者満足度調査は、令和2年11月に外来と入院を分けて実施、「非常に満足」「満足」は外来で88.4%、入院で87.9%、合計で87.1%と、前年実績の88.3%を僅かに下回る結果だった。
- ・患者意見等検討・改善部会を各月1回（年12回）開催し、提案箱に寄せられた患者意見に対し各部署から回答した内容が十分であったのかなどを多職種で検討した。検討の結果、不足が確認された場合には、更なる改善策を検討した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績	
患者満足度調査概ね満足とした割合	90.6%	88.7%	89.9%	88.3%	87.1%	
提案箱意見件数	179件	203件	174件	160件	127件	
患者意見等検討・改善部会開催回数	—	6回	12回	12回	12回	検討会の開催はH29年度から

○外国人患者への対応

・静岡県国際交流協会事業である「静岡県医療通訳制度」を利用した医療通訳、翻訳機としてのポケットの導入に加え、19カ国語に対応した、電話医療通訳サービスの利用手続きを行い、より多くの言語への対応ができる体制を整えた。

(4) 接遇に対する職員の意識向上

○患者への接遇

・各部署での朝礼や定例会議の冒頭において、基本理念・基本方針の唱和を行い、それらを常に念頭に置き業務に当たった。

・患者満足度調査(接遇項目のみ)について、概ね満足とした割合が87.0%、目標値である88.0%以上を下回る結果となったが、前年度実績を2ポイント上回った。患者の満足度を高めることができるよう、接遇に対する職員の意識向上をさらに進め改善していく。

・総合相談センターでは患者満足度調査を行い、患者の要望を把握し今後の医療サービスの向上に役立てるとともに、結果を病院ホームページに掲載した。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
患者満足度調査 (接遇項目のみ) 概ね満足とした割合	83.1%	85.0%	85.7%	85.0%	88%以上	87.0%

○接遇研修への参加状況

・職員等接遇研修は、病院に勤務する全職員のほか、委託業者も対象とし行った。各所属から選出された接遇研修リーダーが内部講師による研修に参加し、内部講師の研修を踏まえ、各所属で日頃の業務上の課題や改善点をもとに独自で研修を実施した。

・新規職員に対し、身だしなみについての自己チェックリストを配付し、チェックを行うことにより、接遇意識の向上に努めた。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
接遇研修の実績					
参加延べ人数	1,302人	1,192人	1,297人	1,084人	1,195人
参加率	88.9%	87.2%	87.3%	73.8%	85.5%

4 組織力を生かした診療体制

(1) 部門を超えた連携の強化

○多職種間の連携推進

・病院内で目的別に多職種による様々なカンファレンスを実施した。

各診療科での問題解決のために行うカンファレンスは単独で行う場合と関連する複数の診療科と合同で行う場合がある。また、最適な手術を執刀することを目的に、それぞれの職種が違う視点からの意見を出し合うカンファレンスもあれば、血液浄化センターや救急医療を円滑に運営するために行うカンファレンスも実施しており、それぞれの専門性を最大限に発揮することができる業務執行体制を維持した。

・月に1度開催している多職種合同の部門連絡会及び、隔月で開催している多職種連絡委員会を、予定どおり開催し、自部署だけで解決できない問題や、広報すべき行事をタイムリーに周知し情報共有することで、効率的な業務運営に貢献できるよう意見交換を行った。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
多職種連絡委員会の開催回数	6回	6回	6回	4回	6回
多職種合同の部門連絡会の開催回数	12回	12回	12回	12回	12回
多職種による診療計画策定の件数	13,110件	12,782件	13,149件	12,861件	11,305件

(2) チーム医療

○チーム医療の実施

・医療の高度化、複雑化に対応するため、テーマごとに多職種が連携する医療チーム（6チーム）を編成し、患者ケアにあたった。

<栄養サポートチーム>

- ・週1回のチームカンファレンス及び病棟回診を実施した。
- ・令和2年度栄養サポートチームでは、79回の回診を実施し、「できる限り口から食べる」「腸を使う」という方針のもと、栄養状態が良くない患者さんに対し、栄養補給方法や口・腸を使って栄養をとる方法の検討を行った。

<感染対策チーム>

- ・週1回のチームカンファレンス及び病棟回診を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症関連では、病院の様々な方針を決めるにあたり、感染対策チームからの意見を基に方針案を作成するなど、大きな問題から細かな対策まで全てを担った。

<褥瘡対策チーム>

- ・毎週木曜日にカンファレンス及び病棟回診を実施した。
- ・令和2年度褥瘡新規発生率は1.4%で、医療・看護必要度が40%以上を推移する中、週1回の回診により褥瘡発生率を低く抑えた。

<認知症ケアチーム>

- ・毎週木曜日にチームカンファレンス及び病棟回診を実施した。
- ・令和2年度認知症ケアチームでは、53回の回診を実施し、322名介入した。前年度に比べ回診回数、介入人数の拡大を図り、チーム介入優先患者を中心に効率よく活動した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
栄養サポートチーム (NST) 回診回数	89回	62回	78回	67回	79回
感染対策チーム(ICT) 回診回数	52回	52回	51回	50回	95回
褥瘡対策チーム 回診回数	62回	41回	47回	48回	47回
緩和ケアチーム 対応患者数	59人	88人	74人	81人	34人
呼吸サポートチーム 回診回数	46回	52回	17回	8回	12回
認知症ケアチーム 回診回数	—	—	57回	50回	53回

5 安心・安全な医療の提供

(1) 医療安全対策

○医療事故や院内感染の発生・再発防止への取組

- ・医療事故等の発生、再発防止の取組みとして、医療安全委員会を毎月開催した。
- ・医療安全管理室により、インシデントレポートを毎月集計、報告するとともに、レポートは事例毎に作業部会に振り分け、検証し、対策等を委員会で報告するなど、再発防止、院内周知を行った。
- ・医療安全講演会を2回開催し、延べ参加者1,915名、平均参加率92.0%と、目標値を上回る結果であった。

第1回（7月6日開催） 医療安全管理室長による講演

対象者：1,070名（正規職員）

参加者：1,029名 受講率：95.6%

（当日127名(サテライト会場を含む)、ビデオ上映会(7/27, 8/14, 25, 28)494名、e-Learning408名）

第2回（11月27日開催） 当院顧問弁護士による講演

対象者：1,002名（全職員）

参加者：886名 受講率：88.4%

（当日91名(サテライト会場を含む)、e-ラーニング795名）

- ・その他の活動として、あんぜん情報誌の発行、深部静脈血栓症予防講習会、インスリン勉強会、血栓塞栓症予防講習会、転倒転落予防講習会、末梢静脈穿刺勉強会を実施した。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020年度 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
全職員向けの 医療安全研修の実績						
開催回数	2回	2回	2回	2回	—	2回
参加人数	1,084人	1,481人	1,721人	1,732人	—	1,915人
参加率	59.0%	74.3%	86.7%	89.7%	90.0%	92.0%

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
医療安全委員会 開催回数	12回	12回	12回	12回	12回
院内感染対策委員会 開催回数	12回	12回	20回	13回	12回

○病院内での暴言・暴力対策

- ・病院内での患者トラブル・悪質クレームに対応するため、保安員（警察 0B）2名の配置を継続した。
- ・院内の暴言・暴力対策研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止を考慮し、開催を中止した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
暴行対策研修 参加延べ人数	—	48人	83人	44人	感染予防の ため中止

研修の開催は
H29年度～

(2) 法令・行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底

○適切な業務運営の確保

ア 内部統制に関する取組

- ・日常的な会計処理に係る内部統制の取組として、顧問会計士による監査を2回実施し、指摘のあった事項について見直し等の改善を行った。
- ・内部統制研修「契約事務研修会」を内部講師により実施した。（2月8日実施）
- ・診療報酬支払に関わる種々の施設基準の届出に対し、要件に則って適切に実施されているか否かを確認する「適時調査」について、関連部署によるセルフチェックを実施した。
- ・医療法に基づく立入り検査（医療法第25条第1項）は、新型コロナウイルス感染防止のため、書類審査のみとなったが、特に指摘はなく、適正に業務を実施した。

イ 個人情報保護及び情報公開に関する取組

- ・院内の適切な個人情報の取扱いの推進のため、個人情報保護委員会が中心となり、10～12月に「個人情報保護重点取組月間」として、各部門で課題点の抽出、改善に向けた目標を設定し、活動を行った。特に、前年度から取り組んだUSBメモリの管理について、「電子カルテシステム内診療データの院外持ち出しのルール」の見直し及び改訂を行い、周知を図った。
- ・個人情報保護講演会を開催し、職員のSNSの利用時の問題事例から、その影響と対策を学んだ。（参加人数 545人）
- ・必要に応じ、総合情報医療システムへの不正アクセスのモニタリングを実施した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
内部監査の実施回数	2回	2回	2回	2回	2回

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
個人情報保護委員会の 開催回数	2回	2回	1回	3回 講演会1回	3回 講演会1回
診療録開示件数	58件	48件	64件	67件	74件

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 業務運営体制の構築

(1) 効率的な業務運営の実現

○効率的な業務運営

・法人経営の議題を扱う「経営会議」と病院運営の議題を扱う「運営会議」とに分けて開催することにより、理事長、病院長の権限の明確化、役割の分担と連携を図り、必要に応じて臨時経営会議と運営会議を連続して開催するなどして効率的な運営を図った。

また、両会議の決定事項等を院内各部門が会する部門連絡会で毎月共有することで、決定した方針が速やかに院内全体に行き渡る体制を確立した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
組織全体へ周知等を図る 会議などの開催回数					
経営会議	-	-	-	16回	20回
運営会議	12回	14回	12回	27回	30回
部門連絡会	12回	12回	12回	12回	12回
幹部会議	26回	25回	24回	-	-

※表中の数値は臨時開催を含む

(2) 組織的な業務改善の取組

○組織的な業務改善の取組

ア 原価計算の実施

・診療・経営データを共有し、業務改善を図ることを目的として、令和2年度に初めて、原価計算の分析結果を基に、各診療科医師と院長ヒアリングを実施した。(実施期間 8/17～10/12、延べ日数 25日、延べ参加人数 110人)

イ 外部講師による講演会

・経営改善に向けた院内セミナーとして、令和2年度に実施された診療報酬改定の算定注意点などを院内全体で共有するため、医療事務受託業者を講師とした「保険診療に関する研修会」を開催(2/18・3/4)し、延 265人(e-ラーニング 234人を含む)が参加した。

ウ 院内の職員合同講習会(勉強会)

・新型コロナウイルス感染防止予防のため、「看護研究発表大会」の開催は中止となったが、研究成果をまとめ、院内で紙面発表を行った。

・医療の質の向上を目的に、医療従事者が各専門分野で研究したテーマを院内職員に情報提供する「学術発表会」についても、新型コロナウイルス感染防止対策のため、開催は中止となったが、より多くの職員に情報提供するため、研究発表ポスターを院内に掲示した。

・院内のクオリティー向上活動について取組を発表する「クオリティマネジメント報告会」についても、一堂に会しての報告会は中止となったが、より多くの職員に情報提供するため、取組内容を院内に掲示した(22部署)。

・診療報酬の算定状況やベンチマーク、また急性期病棟の経営指標、病床機能報告制度など院内広報誌「コンパス」(計6回発行)を発行し、周知した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
経営改善研修会の 参加延べ人数等					
外部講師による 講演会	1回開催 110人	2回開催 306人	2回開催 149人	4回開催 524人	2回開催 265人
院内の職員合同 講習会(勉強会)	3回開催 483人	3回開催 392人	3回開催 529人	6回開催 438人	感染予防の ため中止

R2会場31人
e-ラーニング234人

(3) 市民との協働による病院運営の実施

○市民との協働による病院運営の実施

- ・感染拡大を考慮し、例年実施していた、地元自治会との共催での市民公開講座を、開催を見合わせた。
- ・ボランティア活動の自粛を余儀なくされるなか、衛生材料（ウエス）作りなどの活動を実施、延べ151人のボランティアの協力を得た。
- ・例年実施していた静岡デザイン学校の学生ボランティアによる、時節をテーマにしたフラワーアレンジメントの院内での制作についても中止とした。
- ・入院患者のためのイベントとして実施していた、雙葉中学校・高等学校のハーブ部の生徒と当院職員の共催による院内クリスマスコンサートについても中止とした。
- ・がん患者や患者家族の情報交換や不安解消につなげる場として、がん患者サロン「葵」を、年4回実施した。（感染拡大を考慮し、前年度と比較し実施回数は減少）した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
地元自治会等との共催事業の実施回数	3回	3回	3回	3回	感染拡大を考慮し中止
院内でボランティア活動をされた方の延べ人数	517人	515人	422人	449人	151人
学生ボランティアによるフラワーアレンジメント展示回数	4回	5回	7回	5回	感染拡大を考慮し中止
院内コンサートで学生ボランティアとして協力された方の人数	45人	30人	41人	18人	感染拡大を考慮し中止
「がん患者サロン葵」の開催実績	12回	12回	12回	10回	4回

○障害者雇用の促進

- ・障害者雇用のため、スタッフ専用の執務室を用意し、ワークステーションとして運用を開始した。
- ・仕事内容に不安を感じる障がい者を対象に、ハローワークと共催で病院見学会を実施し、15人が参加した。見学会後、ワークステーションの実習を希望する障がい者9人を受け入れた。
- ・ワークステーションのスタッフの、業務全般に係る管理・指導の実施やスタッフからの相談に対応するための障害者支援員を配置し、スタッフが働きやすい環境を整備した。
- ・ワークステーションを、令和2年10月に、スタッフ間の公募により「虹色ステーション」と改名、執務室に表示するロゴを作成するなど、スタッフがプライドを持ち働くことができる環境を整備した。
- ・令和2年度は新たに10人の障がい者を採用、障がい者の実雇用率は2.8%となり、法定雇用率を初めて達成することができた。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020年度 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
障害者雇用率	0.82%	1.10%	1.60%	1.86%	2.50%	2.80%

※法定雇用率の推移 H25～H29(2.3%)、H30～(2.5%)

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
障害者雇用人数	6.0人	9.0人	12.0人	14.0人	19.0人	22.0人

2 優れた人材の確保・育成

(1) 医療従事者の確保

○初期臨床研修医の確保

・研修医採用に向けては、コロナ禍により従来の院外リクルート活動が中止となる中、当院独自のオンライン説明会、市内臨床研修4病院合同web説明会の開催などに取り組んだ。マッチングでは募集人数13人に対し13人がマッチし、全員が国家試験合格後、採用に至った。

・2020年度版医師臨床研修指導ガイドラインに則り、新たに4週間の外来研修を組み込むなどのプログラム更新や研修医メンター制の導入に取り組んだ結果、満足度調査における全体の満足度指数は96.6%となった。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020年度 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
募集定員充足率 臨床研修医(初期)	100%	100%	100%	100%	100%	100%

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績	満足度	
						(3点満点)	評価点
臨床研修指導医数	52人	63人	63人	60人	56人	3.0	$3.0 \div 3.0 = 100.0\%$
アンケートによる臨床研修医の満足度指数	93.9%	95.4%	96.0%	96.6%	96.6%	2.8	$2.8 \div 3.0 = 93.3\%$
						2.8	$2.8 \div 3.0 = 93.3\%$
						3.0	$3.0 \div 3.0 = 100.0\%$

○専攻医の確保

・専攻医の採用では、オンラインによる研修プログラム個別相談会の開催などを行い、内科・外科専門医研修プログラム採用率は前年度採用実績を上回る46.2%（6人採用／13人募集）であった。目標値である50.0%には達しなかったが、近隣病院との比較では高い採用人数となった。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020年度 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
募集定員充足率 専攻医※	—	30.8%	53.8%	38.4%	50%以上	46.2%

※平成30年4月採用者(H29実績)から新専門医制度が開始

参考:内科・外科専門医研修プログラム採用状況(地区別)

地区	採用人数	募集人数	充足率
静岡県全体	78人	198人	39.4%
中部	21人	60人	35.0%
東部	5人	25人	20.0%
西部	52人	113人	46.0%

参考:内科・外科専門医研修プログラム採用状況(主な近隣病院)

医療機関名	採用人数	募集人数	充足率
静岡県立総合病院	8人	20人	40.0%
静岡市立静岡病院	6人	13人	46.2%
焼津市立総合病院	1人	5人	20.0%
静岡市立清水病院	0人	5人	0.0%
静岡赤十字病院	0人	7人	0.0%
静岡済生会総合病院	3人	3人	100.0%
藤枝市立総合病院	2人	4人	50.0%
市立島田市民病院	1人	3人	33.3%

参考 在籍する専攻医の人数(4月1日現在)

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
在籍専攻医人数	—	21人	18人	20人	22人
うち他院プログラムで 在籍する専攻医人数	—	0人	1人	4人	8人

※平成30年4月採用者(H29実績)から新専門医制度が開始

○看護師の確保

- ・看護専門学校や大学などの看護師養成機関に対しての就職説明会のほか、オンラインによる業者主催の就職説明会等にも、看護部の紹介ビデオを手作りで作成し、積極的に参加した。また、採用に直結しやすいインターンシップは、感染防止のため、看護体験を省き、ビデオ中心の内容に変更することにより、時間を短縮し実施回数の増加を図った。夏と春に計15回開催し、179名が参加し、当院で働く魅力を伝え看護師採用につなげた。(前年度実施回数7回、参加者90名)
- ・看護学生の主な受入れ養成機関は、静岡看護専門学校のほか、県立大学看護科、常葉大学看護科であるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実習の多くが中止となったことから、実習受入れ人数も減少した。
- ・認定看護師数は、感染管理認定看護師1名が増え、13人となった。コロナ禍による影響で、認定看護師試験が中止となり、さらなる増員はできなかったが、専門看護師が1名誕生し、さらに、10月に特定行為研修指定医療機関の指定を受けることができたことから、5名の看護師が特定看護師を目指し研修を受けている。今後も認定看護師や専門看護師等の資格取得支援を奨励し、計画的に増員していく。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
看護実習受入人数	213人	295人	281人	291人	147人
認定看護師数 ※	10人	11人	12人	12人	13人

※3月31日時点における資格保持者の人数

(2) 教育・研修への取組

○職員教育及び研修の実施状況

- ・新職員対象の多職種合同研修は、例年、院外の総合医療トレーニング施設(テルモメディカルプラネックス)で実施しているが、コロナ禍により院内で実施した。
- ・看護部で毎年実施している看護研究発表大会は、コロナ禍により中止したが、研究成果をまとめ、院内で紙面発表を行い、情報共有を図った。
- ・事務プロパー職員について、静岡市職員研修(階層別研修及び一部専門研修)への参加を実施した。
- ・看護師特定行為研修については、厚生労働省より令和2年8月25日付で指定研修機関として認定され、10月1日に開講した。第一期生として当院看護職員5名が受講を開始した。併せて、特定行為研修修学資金貸与規程を制定し、受講料を貸与するなど受講生の負担軽減を図った。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
新職員多職種合同 研修の開催実績	3日間 新職員135人	2日間 新職員87人	3日間 新職員104人	2日間 新職員78人	1日間 新職員46人
看護研究発表大会 の参加者数	312人	314人	278人	202人	開催中止
接遇研修の実績(再掲)					
参加延べ人数	1,302人	1,192人	1,297人	1,084人	1,074人
参加率	88.9%	87.2%	87.3%	73.8%	85.5%
臨床研修指導医数(再掲)	52人	63人	63人	60人	56人
アンケートによる臨床研修 医の満足度指数(再掲)	93.9%	95.4%	96.0%	96.6%	96.6%

3 新たな働き方の実現を目指した職場環境の整備

(1) 働き方改革への取組

○働き方改革への取組

ア 医師の時間外勤務縮減

・医師の時間外勤務縮減のため、変形労働時間制の活用や毎月の診療部会議において診療科別時間外状況の報告と注意喚起を行った。また、時間外勤務の扱いとなっている宿直業務の一部について、外部の応援医師により対応することとしたり（R2.2～）、変形労働制など多様な働き方の取組を継続した結果、医師の平均時間外勤務時間数は年度目標の月45時間を約7時間下回る月38.6時間となった。

イ ワークライフバランスの推進

・育児・介護短時間制度による柔軟な勤務形態の活用により、短時間でも働き続けられる制度の利用を希望する職員が継続的に勤務できた。
 ・働き方改革関連法の施行に伴う、年5日の年次有給休暇取得については、毎月の経営会議において取得状況を報告するなど、確実な取得に向け院内全体で取り組んだ。

ウ ハラスメント防止の研修及び啓発

・管理監督者を対象としたハラスメント防止研修会を開催するなど、職場内のハラスメント防止対策に取り組んだ。

目標値

項目	2017(H29年度)実績		2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標値	2020 (R2年度) 実績
	変形労働時間制 導入前	変形労働時間制 導入後				
医師の平均時間外勤務時間数	56.5時間/月	46.5時間/月	50.1時間/月	48.0時間/月	45.0時間/月	38.6時間/月

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績	検討会議の 開催はH29年 研修の開催は H29年度～
長時間労働改善のための検討会議等の実施回数	—	8回	12回	12回	12回	
ハラスメント防止研修の参加延べ人数	—	110人	61人	資料配付 約270名	32人	

(2) やりがいを引き出す人事・給与制度の整備

○職員の勤務意欲向上のための取組

・職員の仕事や職場への満足度や意欲、問題意識などを把握するため、全職員を対象にした「職員満足度調査」（日本医療機能評価機構提供）を実施した。この調査により、職員のモチベーションの状況やニーズを把握することで、より質の高い医療を提供するための「人材育成や意識改革」、「職場環境を整備するための施策」につなげていきたいと考えている。

対象者：全職員（パートタイマー含む）

調査期間：令和2年11月2日から11月30日まで

回答者数：844名 回答率72.7%

総合評価（「当院を職場としてすすめようと思いますか？」）2.98（5点評価）

※参考：一般病院（500床以上）ベンチマーク2.92

・人事評価制度については、事務部門において段階的に試行しているが、他職種への導入の可能性については、その効果も含め、研究していく。

・新型コロナウイルス感染症患者の対応にあたる職員の身体的・心理的負担等に鑑み、感染症の患者の診療、看護等に従事する職員に対する手当を増額した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
高難度専門資格を有する職員の人数※					
医師	84人	92人	92人	89人	93人
看護師	10人	11人	12人	13人	14人
医療技術員	11人	11人	13人	15人	18人

※3月31日時点における資格保持者の人数

第4 財務内容の改善に関する事項

1 健全経営の維持

(1) 経営基盤の確立

○安定的な病院経営

- ・安定的な病院経営を維持するため、収入確保策への取組みと費用削減に努めた。
- ・入院・外来患者数は新型コロナウイルス感染症の流行による減少を避けられず、前年度と比較し大幅に下回ったものの、入院・外来単価のいずれも前年度実績を上回る結果となった。
- ・医業収益は前年度に比べ843百万円減の17,642百万円となった。
- ・医業費用は医療体制維持に必要な医師、看護師等の増加、麻酔科医及びICU当直医の増加などにより前年度に比べ90百万円増の19,238百万円となった。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応のため、一般病棟の稼働病床の減少や薬品、診療材料の購入増加により、収支の悪化が懸念されたが、新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金等収益により今年度の経常収支は1,222百万円の黒字を達成することができた。

目標値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 目標	2020 (R2年度) 実績
経常収支比率	101.4%	99.0%	100.3%	100.1%	100%以上	106.1%
資金収支比率	113.8%	96.7%	106.9%	105.5%	100%以上	112.7%

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
自己資本比率	26.3%	26.5%	27.7%	28.3%	32.8%
流動比率	242.6%	262.4%	287.8%	267.2%	336.9%

(2) 収入の確保

○収入確保に係る取組

ア 適切な診療報酬請求事務の実施

- ・請求漏れ防止策の強化として、新たに設置した医事経営部医事経営室を中心に、定期的に請求データの精度管理を実施した。
- ・査定内容の検証や積極的な再審査請求、また再発防止のため、保険診療委員会を毎月開催し、査定理由に応じたチェックシステムへの登録等の査定対策に努め、査定率は0.28%となった。

イ 未収金回収の取組

- ・未収金回収への取組みとして、入院前の段階で限度額適用認定証の制度を説明し利用の促進を図り、

職員による督促を行い、令和2年度の収納率（現年度分）は98.6%となった。

ウ 診療報酬改定等への対応

- ・令和2年度に行われた診療報酬改定については、新たに新規施設基準を取得するため、定期的に取り得可否を検証し、機会損失のないよう対応した。
- また、全職員向けに「保険診療に関する研修会」を年2回開催した。
- <参考：2020（令和2年度）施設基準取得は2件、年間70,000千円の増収>

エ 地域医療機関との連携

- ・新型コロナウイルス感染予防のため受診患者数が減少し、大きな影響を受けたが、紹介率は86.4%と前年度（86.7%）を下回ったものの、同水準を維持し、逆紹介率は144.0%と、前年度（135.9%）を大きく上回る結果となった。

オ 入退院支援に係る取組

- ・入院支援説明を行う看護師を配置し、入院前に退院困難な患者のスクリーニングによるアプローチ等を早期に行い、入院前から退院まで一連の支援を行った。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
病床利用率	89.8%	88.2%	90.8%	89.0%	77.8%
収納率(個人負担の現年度分)	98.1%	98.6%	98.0%	98.9%	98.6%
入院延べ患者数	165,836人	162,928人	167,789人	164,860人	143,675人
外来延べ患者数	282,213人	277,006人	279,826人	278,772人	251,634人
平均在院日数	12.1日	12.2日	12.1日	12.2日	11.7日
入院単価	73,295円	76,105円	77,066円	78,596円	84,318円
外来単価	18,168円	18,129円	18,196円	18,567円	20,647円

(3) 費用の節減

○費用の節減に係る取組

ア 給与費抑制に係る取組

- ・人件費の適正な管理については、経営面への影響を配慮しつつ、診療報酬の確保や働き方改革への対応、第一種感染症指定医療機関としての医療体制の整備などを十分に配慮した上で、職員の適正配置及び給与費の抑制に努めた。
- ・給与費比率は51.4%であった。

イ 医薬品や診療材料費の抑制に係る取組

- ・後発品の採用については、毎月の薬剤委員会にて各メーカーからの最新情報を検証し、切替可能な医薬品から行い、後発医薬品指数は89.8%となった。
- ・医薬品価格交渉については、アドバイザーからの最新の市場価格情報に基づき医薬品ディーラーと定期的交渉（施設課単独での交渉：4回、アドバイザー同席での交渉：4回）し、前年度の値引率16.84%以上の値引率を目標に取り組み、主要5社の医薬品最終値引率は17.81%となった。
- ・診療材料の価格交渉については、当院が利用契約を行っているベンチマークシステムを指標とし、職員がディーラーと価格交渉を行い、ベンチマークシステムの平均値を下回るよう取り組んだ。
- ・在庫管理については、医薬品は年4回、診療材料は毎月の実地たな卸しを行い、在庫管理の徹底や期限切れ等による減耗損の発生防止に努めた。

ウ 職員の経営意識の醸成

- ・月次収支の報告資料の内容について、前年度との差異が生じた理由等を明確に示し、医業収支や営業収支での状況を伝えるようにし、毎月第3水曜日開催の経営会議にて詳細に説明するとともに必要に応じ、経営向上のための協力事項を整理し、幹部や各部門へ伝達した。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
給与費比率	47.5%	48.1%	47.5%	48.0%	51.4%
材料費比率	31.0%	31.3%	31.0%	31.8%	33.0%
後発医薬品指数	83.9%	85.6%	87.0%	88.5%	89.8%
経費比率	16.7%	17.0%	16.7%	16.6%	18.0%
委託費比率	9.0%	9.3%	9.1%	9.1%	9.2%

第5 その他業務運営に関する重要事項

1 計画に基づいた効率的・効果的な投資

○MR I (1.5T) のバージョンアップ

・MR I 検査室では、2台のMR I で、検査を行ってきたが、投資計画に基づくMR I (1.5T) 1台の更新時期を迎え、症例数増加による検査待ち患者の増加と、工事期間中の1台体制による影響を考え、工期が短くなるバージョンアップにより行うことを決定した。

・対象装置は、令和2年7月10日にバージョンアップが終了し、7月17日に運用を開始した。現在2台体制で検査を行っている。

○新型コロナウイルス感染症対策機器等の導入

・現在、世界的に問題となっている新型コロナウイルス感染症への対策として、国の補助金を活用し、体外式膜型人工肺、人工呼吸器、簡易陰圧装置などの導入を速やかに行った。

・感染症病棟及び新型コロナ感染症対策病床のある病棟とへの配備を行った。

・減価償却費比率については、前年度より0.4ポイント減の6.4%となった。

参考値

項目	2016 (H28年度) 実績	2017 (H29年度) 実績	2018 (H30年度) 実績	2019 (R1年度) 実績	2020 (R2年度) 実績
減価償却費比率	7.2%	7.7%	7.0%	6.8%	6.4%

第6 予算、収支計画及び資金計画

1 予算（令和2年度）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 決算－予算
収入	21,156	21,583	427
営業収益	20,642	20,886	244
医業収益	18,778	17,654	▲1,124
運営費負担金収益	1,790	1,790	0
補助金等収益	74	1,435	1,361
その他営業収益	0	7	7
営業外収益	193	288	95
運営費負担金収益	60	60	0
その他営業外収益	133	228	95
臨時利益	0	0	0
資本収入	321	409	88
運営費負担金収益	0	0	0
長期借入金	300	300	0
その他資本収入	21	109	88
その他収入	0	0	0
支出	20,539	21,062	523
営業費用	18,926	19,020	94
医業費用	18,505	18,606	101
給与費	8,959	8,905	▲54
材料費	5,853	6,245	392
経費	3,590	3,410	▲180
研究研修費	103	46	▲57
一般管理費	422	413	▲9
営業外費用	161	237	76
臨時損失	0	43	43
資本支出	1,451	1,762	311
建設改良費	764	1,086	322
償還金	606	606	0
その他資本支出	81	70	▲11
その他支出	0	0	0

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

【人件費】

期間中総額9,290百万円を支出した。なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

2 収支計画（令和2年度）

（単位：百万円）

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
収入の部	20,798	22,084	1,286
営業収益	20,614	21,805	1,191
医業収益	18,736	17,642	▲1,094
運営費負担金収益	1,790	1,790	0
補助金等収益	74	2,315	2,241
寄附金収益	0	6	6
資産見返負債戻入	14	53	39
営業外収益	184	278	94
運営費負担金収益	60	60	0
その他営業外収益	124	218	94
臨時利益	0	0	0
支出の部	20,822	20,862	40
営業費用	19,743	19,660	▲83
医業費用	19,323	19,238	▲85
給与費	8,954	9,076	122
材料費	5,838	5,817	▲21
経費	3,289	3,173	▲116
減価償却費	1,149	1,131	▲18
研究研修費	92	41	▲51
一般管理費	421	421	0
営業外費用	1,078	1,156	78
臨時損失	0	46	46
純利益	▲24	1,222	1,246
目的積立金取崩額	24	0	▲24
総利益	0	1,222	1,222

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

3 資金計画（令和2年度）

（単位：百万円）

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
資金収入	25,331	25,695	364
業務活動による収入	20,835	21,173	338
診療業務による収入	18,778	17,654	▲1,124
運営費負担金による収入	1,850	1,850	0
その他の業務活動による収入	207	1,669	1,462
投資活動による収入	21	1,609	1,588
運営費負担金による収入	0	0	0
その他の投資活動による収入	21	109	88
定期預金の戻入による収入	0	1,500	2,000
財務活動による収入	300	300	0
長期借入れによる収入	300	300	0
その他の財務活動による収入	0	0	0
前年度からの繰越金	4,175	2,613	▲1,562
資金支出	25,331	25,695	364
業務活動による支出	19,088	19,299	211
給与費支出	9,374	9,333	41
材料費支出	5,853	6,245	392
その他の業務活動による支出	3,861	3,721	▲140
投資活動による支出	760	2,552	1,792
有形固定資産の取得による支出	679	979	300
無形固定資産の取得による支出	0	3	3
その他の投資活動による支出	81	70	▲11
定期預金の預入による支出	0	1,500	1,500
財務活動による支出	692	710	18
長期借入金の返済による支出	240	240	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	366	366	0
その他の財務活動による支出	85	104	19
次年度への繰越金	4,792	3,133	▲1,659

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

第7 その他市の規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画（令和2年度）

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	決算額	財源
施設、医療機器等整備	954	静岡市長期借入金等